

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 (2時間)	1	表紙裏 ①・1	もっと もっと、書きたいね！書いて、つたえたいね！	○書写学習を通じ、文字や書写学習に対する関心を高めることができる。	○1年時の書写学習を振り返る。 ○水書用筆の使い方や練習方法を確認する。 ○教科書の写真を見て、書写で学習することは、どのような場面に生かせるのか考える。	アイウ	<b>B</b> ：校内にある文字が読めるようになっている。 書写で学習したことを理解して書いている。  <b>A</b> ：校内にあるほとんどの文字が読めるようになっている。 書写で学習したことをよく理解して書いている。  <b>支援</b> ：校内の文字をあらかじめ写真に撮影し、教室の電子黒板に投影し、児童の理解を促す。	<b>B</b> ：書写で文字の書き方について学習したことを振り返り、考えている。  <b>A</b> ：書写で文字の書き方について学習したことを振り返り、考えている。  <b>支援</b> ：水書用筆の動画を活用し、水書用筆の使い方や練習方法を思い出せるようにする。	<b>B</b> ：1年生で学んだことを生かして、文字や書写学習に対する関心を高めている。  <b>A</b> ：1年生で学んだことを生かして、文字や書写学習に対して常に意欲的に学ぼうとしている。  <b>支援</b> ：書写の授業以外にも、気をつけるように声をかける。
	1	2～11	もくじ 二年生で 学しゅうすること 1 はじめの 学しゅう ①文字を書く しせい ②えんぴつの もち方 ③学しゅうの すすめ方 ④しょしゃの 体そう	○1年生の書写学習で身につけたよい姿勢・鉛筆の持ち方、学習の進め方を確認することができる。	○「よい しせいの 合いことば」「えんぴつの もち方の 合いことば」の唱え歌で姿勢と持ち方を確かめる。 ○教科書を見て「学しゅうのすすめ方」を理解する。 ○「しょしゃの 体そう」に袋文字で例示されている文字を空書したり、水書用紙に書いてみたりする。 ○よい姿勢と鉛筆の持ち方で、硬筆で例示されている文字を練習する。	アイウ	<b>B</b> ：よい姿勢・鉛筆の持ち方がわかっている。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で、点画の書き方を理解して書いている。 学習の進め方を理解している。  <b>A</b> ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことを理解している。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で、点画の書き方をよく理解して書いている。 学習の進め方を、よく理解している。  <b>支援</b> ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促し、ポイントを具体的に説明する。 点画の書き方について、「すうっ」「びたっ」などの声をかけをしながら一緒に運筆の動作をする。 学習の進め方を常に確認できるように、各手順を黒板に貼っておく。	<b>B</b> ：よい姿勢・鉛筆の持ち方について考えている。 点画の書き方について運筆方法を考えている。 学習の進め方について、流れを考えている。  <b>A</b> ：自分の姿勢・鉛筆の持ち方の良しを考えている。 点画の書き方について、運筆方法をよく考えている。 学習の進め方について、流れをよく考えている。  <b>支援</b> ：どこを正すと姿勢・鉛筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。 止めるところ、筆圧をかけるところなどに焦点化して説明する。 なぜ試し書きをするのか具体的に説明する。	<b>B</b> ：ふだんの書く場面でも、よい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 他の文字を書く場面でも、点画の書き方に気をつけて書く意識をもっている。  <b>A</b> ：常に、よい姿勢・鉛筆の持ち方で書こうとする意識をもっている。 ふだんの書く場面でも、点画の書き方に気をつけて書く意識をもっている。  <b>支援</b> ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことができるように意識づける。 書写の授業以外にも気をつけるように呼びかける。
5月 (3時間)	3	12・13	2 かたかなの 学しゅう 画の方こう	○片仮名の画の方向の違いを理解することができる。 ○片仮名の画の方向の違いに気をつけて、正しく書くことができる。 ○促音、長音、濁音、半濁音の書き方と書く位置を確かめて書くことができる。	○『マ』『ア』『ワ』『ク』『ソ』『ツ』『ン』『シ』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「画の方向」や「はらいの方向」の違いを話し合う。 ○「点」や「はらい」の方向の違いに気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『ス』『ヌ』と『コ』『ゴ』を比べて、「画の接し方」の違いを話し合う。 ○促音・拗音を書く位置や、音引・濁点・半濁点の書き方を確かめる。 ○片仮名で書く言葉を探して、画の方向に気をつけて書	アイウ	<b>B</b> ：「はらい」の方向について理解している。 「はらい」の方向に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：「はらい」の方向の違いを、よく理解している。  <b>支援</b> ：自分が書きにくい文字について、正しい書き方と比べてみるができるようにする。	<b>B</b> ：払う方向の違いについて考えている。  <b>A</b> ：払う方向の違いについて、よく考えている。  <b>支援</b> ：教科書のイラストなどを使って、払う方向の違いが確かめられるようにする。	<b>B</b> ：他の文字でも、片仮名の字形に気をつけて書こうとしている。  <b>A</b> ：片仮名の終筆と送筆に気をつけて、積極的に書こうとしている。  <b>支援</b> ：教科書のイラストなどを使って、片仮名の言葉を書く活動に関心をもつようはたらきかける。
			3	かん字の 学しゅう ①書きじゅん	○書き順の原則（横画から書く、長い縦画から書く）を理解することができる。 ○書き順に従い、文字を正しく書くことができる。 ○似ている部分のある文字を、書き順に従い、正しく書くことができる。	○『十』『上』『土』『点』の書き順を声に出しながら空書する。 ○『十』『上』『土』『点』を鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「書き順の原則」について話し合う。 ○正しい書き順で書く利点を確かめる。 ○『中』『月』の原則を確かめながら練習する。 ○これまでに学習した文字についても、書き順の原則にあてはめて書く。	アイウ	<b>B</b> ：書き順の原則を理解している。書き順の原則に従って、正しく書いている。  <b>A</b> ：それぞれの文字の書き順の違いについて、よく理解している。 書き順の原則に従って、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：教科書の脚注や巻末漢字表などを使って、正しい書き順について理解を促す。 書き順を声に出しながら書けるようにする。	<b>B</b> ：書き順の原則について考えている。  <b>A</b> ：書き順の原則や字形について、よく考えている。  <b>支援</b> ：色分け文字などを使って、正しい書き順が確かめられるようにする。
6・7月 (5時間)	2	14・15	②画の方こう 文字をくらべて話し合おう	○「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いを理解することができる。 ○「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、正しく書くことができる。	○『人』『大』『月』『千』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「左はらいの方向」の違いを話し合う。 ○『自分』『星空』『えい画』『見学』を空書きしてから鉛筆で試書し、教材文字と比べて話し合う。 ○画の方向の違いに気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	<b>B</b> ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて理解している。 「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、正しく書いている。  <b>A</b> ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて、よく理解している。 「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：水書用紙などを使って、画の方向の違いを比べてみるができるようにする。	<b>B</b> ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて考えている。  <b>A</b> ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて、よく考えている。  <b>支援</b> ：拡大文字などを使って、画の方向の違いについて確かめられるようにする。	<b>B</b> ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも画の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に、画の方向の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> ：教科書の図版を使って、画の方向について関心を高めるよう促す。 他の文字でも、画の方向の違いがあることに気づくようはたらきかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9・10月 (6時間)	3	20・21	③画の長さ、画と画との間	○画の長さの違いと、画と画との間のとり方を理解することができる。  ○画の長さの違いと、画と画との間のとり方に気をつけて、正しく書くことができる。	○『山』『青』『生』『出』『名』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「画の長さ」の違いを話し合う。 ○画の長さに気をつけて、『山』『青』『生』『出』『名』を鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『貝』『春』『思』『形』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、「画と画との間のとり方」について話し合う。 ○画と画との間のあけ方に気をつけて『春』『思』『形』を練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	<b>B</b> :画の長さの違いについて理解している。 画の長さに気をつけて書いている。 画と画との間のとり方について理解している。 画と画との間のとり方に気をつけて書いている。  <b>A</b> :画の長さの違いについて、よく理解している。 画の長さに気をつけて、字形を整えて書いている。 画と画との間のとり方について、よく理解している。 画と画との間のとり方に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> :拡大文字などを使って、画の長さや画と画との間のとり方を比べてみる ことができるようにする。 どの画を長く書くのかを具体的に説明する。 画と画との間のとり方について、具体的に説明する。	<b>B</b> :画の長さの違いについて考えている。 画と画との間のとり方について考えている。  <b>A</b> :画の長さの違いについて、よく考えている。 画と画との間のとり方について、よく考えている。  <b>支援</b> :拡大文字などを使って、画の長さや画と画との間のとり方について確かめられるようにする。	<b>B</b> :他の文字でも画の長さに気をつけて書こうとする意識をもっている。 他の文字でも画と画との間のとり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> :常に画の長さの違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 常に画と画との間のとり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> :学習した以外の文字でも、画の長さ、画と画との間のとり方に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
	3	22・23	④画のつき方と交わり方	○画のつき方と交わり方を理解することができる。  ○画のつき方と交わり方に気をつけて、正しく書くことができる。	○『作』『文』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「画のつき方」「画の交わり方」の違いを話し合う。 ○画のつき方と交わり方を理解する。 ○画のつき方と交わり方に気をつけて練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	<b>B</b> :画のつき方と交わり方について理解している。 画のつき方と交わり方に気をつけて書いている。  <b>A</b> :画のつき方と交わり方について、よく理解している。 正しい画のつき方と交わり方で、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> :拡大文字などを使って、画と画とがつくところ・交わる場所や、画のつき方と交わり方について確かめられるようにする。	<b>B</b> :画のつき方と交わり方について考えている。  <b>A</b> :画のつき方と交わり方について、よく考えている。  <b>支援</b> :拡大文字などを使って、画のつき方と交わり方が確かめられるようにする。	<b>B</b> :他の文字でも、画のつき方と交わり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> :常に画のつき方と交わり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 学習した以外の文字でも、画のつき方と交わり方に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
10・11月 (3時間)	2	24・25	⑥文字の中心	○文字の中心(縦画が中心にある文字、書き出しが中心の文字など)を理解することができる。  ○文字の中心に気をつけて、正しく書くことができる。  ○学習したことを生かして、字形を整えて丁寧に書くことができる。	○『水』『光』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○『水』『光』の中心をなぞり、文字の中心を理解する。 ○文字の中心に気をつけて練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○文字の中心に気をつけて、学習した文字を使った言葉や教科書の文章を書く。 ○これまで学習したことを確認してから教材文字を書く。	アイウ	<b>B</b> :文字の中心について理解している。 文字の中心に気をつけて、正しく書いている。  <b>A</b> :文字の中心について、よく理解している。 文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> :文字の中心がわかりやすい文字を例にあげて理解を促す。 中心線があるます目を書くことで、自分の書いた文字について中心を確かめられるようにする。	<b>B</b> :文字の中心について考えている。  <b>A</b> :文字の中心について、よく考えている。  <b>支援</b> :拡大文字などを使って、文字の中心にあたる部分について確かめられるようにする。	<b>B</b> :文字の中心に気をつけて書いている。 他の書写場面でも、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> :文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 常に文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> :フェルトペンの文字や拡大文字などを使って、文字の中心になる部分を指でなぞるようにする。 書写の授業以外でも、文字の中心に気をつけて書くよう意識づける。
	1	26	【レッツ・トライ】 ②よこ書きの書き方 一算数のノート	○横書きの書き方や、数字の書き順と字形に気をつけて書くことができる。  ○他教科の学習や日常生活のなかで、横書きの書き方に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○教科書の挿絵を利用して、横書きにする場合、拗音、促音、句読点は「3のへや」に書くことを確かめる。 ○書く位置に気をつけて、教科書の文と数字を書く。	アイウ	<b>B</b> :横書きの書き方を理解して書いている。  <b>A</b> :横書きの書き方を、よく理解して書いている。  <b>支援</b> :数字の書き方についても、誤りやすい例をあげながら、正しい字形を確かめられるようにする。 十字線を入れたます目用紙を使って、正しい位置を確かめられるようにする。	<b>B</b> :縦書きの書き方との違いについて考えている。  <b>A</b> :縦書きの書き方との違いについて、よく考えている。  <b>支援</b> :教科書を参照して、横書きの場合の拗音、促音などの正しい位置が確かめられるようにする。	<b>B</b> :横書きの書き方について知り、学習への意欲をもっている。他の言葉でも、横書きの書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> :横書きの書き方について知り、積極的に学習に取り組もうとしている。 常に横書きの書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> :拗音、促音、句読点は、ます目の中のどの位置に書くのか、確かめられるようにする。 学習した以外の文字でも、横書きの書き方に気をつけて書く意欲をもつことができる。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11・12月 (5時間)	2	27	⑥年がじょうと書きぞめ ●年がじょう	○年賀状の書き方を理解し、年賀状を書こうとする意欲をもつことができる。 ○字形や文字の中心に気をつけて、年賀状を丁寧に書くことができる。	○はがきの書き方を知る。 ○基準に気をつけて、はがきサイズの練習用紙に練習する。 ○文字を書く位置や大きさについて話し合う。 ○学習したことを生かして、年賀状を丁寧に書く。	アイウ	<b>B</b> : 年賀状の書き方について理解している。 年賀状の書き方を理解して書いている。 字形や中心について理解している。 字形や中心に気をつけて書いている。  <b>A</b> : 年賀状の書き方について、よく理解している。 字形や中心について、よく理解している。 年賀状の書き方をよく理解して書いている。 中心に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> : 相手に確実に届けるために正確に書くことを助言する。 行の中心が揃えにくい場合は、鉛筆で中心線を薄く書き、後で消すようにはたらきかける。	<b>B</b> : 年賀状の書き方について考えている。 字形や中心について考えている。  <b>A</b> : 年賀状の書き方について、よく考えている。 字形や中心について、よく考えている。  <b>支援</b> : 教科書の教材を参照しながら、はがきの基本的な書き方について確認できるようにする。	<b>B</b> : 年賀状を書く活動に、積極的に取り組もうとしている。 字形や中心に気をつけて書こうとしている。 書写の授業以外でも、字形や中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> : 年賀状を書く活動に、すすんで取り組もうとしている。 中心に気をつけて、字形を整えて丁寧に書こうとしている。 常に書写の授業以外でも、字形や中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> : これまで学習してきた、字形と中心に気をつけて取り組むようはたらきかける。 ふだんの生活の中でも気をつけて書くよう意識づける。
			●書きぞめ	○句読点の書き方のきまりを確認したり、フェルトペンの持ち方を理解したりして、書きぞめを書こうとする意欲をもつことができる。 ○鉛筆やフェルトペンを正しく持ち、字形や文字の中心に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○「お正月のできごと」の文章を鉛筆で書く。 ○段落の文頭と句読点の書き方のきまりを確かめる。 ○姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて練習する。 ○『元気な子』を空書してから鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「文字の形」や「文字の中心」について話し合う。 ○フェルトペンを正しく持ち、字形や中心に気をつけて練習する。 ○まとも書きをして試書と比べて自己評価する。 ○他にもお正月の言葉を書く。	アイウ	<b>B</b> : 書き出しの位置や、句読点を書く位置、字形や文字の中心について理解している。 書き出しの位置や、句読点を書く位置に気をつけて正しく書いている。 字形や文字の中心に気をつけて正しく書いている。  <b>A</b> : 書き出しの位置や、句読点を書く位置、字形や文字の中心について、よく理解している。 書き出しの位置や、句読点を書く位置を正しく書いている。 文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> : 自分が書いた文字について、正しい文字と比べてみるができるようになる。 今までの学習を想起しながら、字形や文字の中心に気をつけるよう呼びかける。	<b>B</b> : 書き出しの位置や、句読点を書く位置について考えている。 字形や文字の中心について考えている。  <b>A</b> : 書き出しの位置や、句読点について、よく考えている。 字形や文字の中心について、よく考えている。  <b>支援</b> : 今までに学習した内容を確かめられるようになる。	<b>B</b> : 書きぞめに対して、意欲的に取り組もうとしている。 字形や文字の中心に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> : 書きぞめに対して、積極的に取り組もうとしている。 文字の中心に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> : 今までの学習を想起しながら、苦手とする部分について重点的に取り組むようはたらきかける。 学習した以外の文字でも気をつけて書くよう意識づける。
1・2月 (8時間)	3	30・31	⑦文字の形	○文字の外形の違いを理解することができる。 ○文字の外形に気をつけて、正しく書くことができる。	○『自』『工』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○『自』『工』の文字のまわりの点線を鉛筆で囲み、外形を理解する。 ○文字の外形に気をつけて練習する。 ○他の文字でも外形に気をつけて書く。	アイ	<b>B</b> : 文字の外形の違いについて理解している。 文字の外形に気をつけて書いている。  <b>A</b> : 文字の外形の違いについてよく理解している。 文字の外形の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> : おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形かを具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確かめられるようになる。	<b>B</b> : 文字の外形の違いについて考えている。  <b>A</b> : 文字の外形の違いについて、よく考えている。  <b>支援</b> : 文字のまわりを鉛筆で囲み、おおよそどのような形になるか確かめられるようになる。	<b>B</b> : 文字の外形の違いに気づき、学習への意欲をもっている。 他の文字でも文字の形に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> : 文字の外形の違いに気づき、進んで学習に取り組んでいる。 常に文字の形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> : おおよその形を身近なものにたとえて、外形の違いが確かめられるようになる。 他の文字でも、文字の形の違いがあることに気づくようにはたらきかける。
			【書いてつたえおおう】 しょうたいじょう、本のしょうかいカードを書こう	○学習したことを生かして、筆記具や用紙を選び、丁寧に書くことができる。 ○これまで学習したことを生かして、書き順や字形に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○招待状に書く内容を確認し、縦書き・横書きの形式や用紙などを選ぶ。 ○姿勢や筆記具の持ち方、字形に気をつけて書く。 ○友達が書いた招待状のよさを見つけて、伝え合う。(招待状) ○本の紹介カードに書く内容をまとめる。 ○姿勢や筆記具の持ち方、字形に気をつけて書く。 ○友達が書いた本の紹介カードのよさを見つけて、メッセージを書く。(本の紹介カード)	アイウ	<b>B</b> : 横書きのカードの書き方について理解している。 本の紹介カードの書き方について理解している。 字形や書き順に気をつけて書いている。  <b>A</b> : 横書きのカードの書き方について、よく理解している。 本の紹介カードの書き方について、よく理解している。 字形や書き順に気をつけて、丁寧に書いている。  <b>支援</b> : 教科書の作例を提示するなどして、書き方について理解を促す。 巻末漢字表などを活用し、字形や書き順を確かめられる。	<b>B</b> : 招待状の書き方について考えている。 本の紹介カードの書き方について考えている。  <b>A</b> : 招待状の書き方について、よく考えている。 本の紹介カードの書き方について、よく考えている。  <b>支援</b> : 教科書の作例を提示するなどして、書き方について考えるよう促す。	<b>B</b> : 他の学習場面においても、相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。  <b>A</b> : 常に相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。  <b>支援</b> : 招待状を贈りたい相手と、伝える内容について考えることができるよう、具体例をもとに促す。 他の学習場面においても、字形に気をつけて丁寧に書くよう意識づける。
			【知りたい文字のせかい】 何の形からできたかん字かな	○物の形からできた漢字があることを知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○教科書に提示された絵を見て、どんな漢字ができあがるのか予想して、話し合う。 ○それぞれの文字を書くときの留意点(方向、長さなど)を確認し、鉛筆で書く。 ○書いたものを紹介し合い、発表する。	アイウ	<b>B</b> : 漢字の成り立ちについて理解している。 学習した漢字について、字形に気をつけて書いている。  <b>A</b> : 漢字の成り立ちについて、よく理解している。 学習した漢字について、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> : 漢字の成り立ちを視覚的にとらえられるようになる。 今までの学習を生かして、丁寧に書くよう助言する。	<b>B</b> : 漢字の成り立ちについて考えている。  <b>A</b> : 漢字の成り立ちについて、よく考えている。  <b>支援</b> : 教科書の成り立ちクイズに取り組むなど、成り立ちについて考えるよう支援する。	<b>B</b> : 漢字の成り立ちに対する興味・関心をもって書こうとしている。 他の漢字についても、その成り立ちについて関心をもっている。  <b>A</b> : 漢字の成り立ちに対する興味・関心を持ち、積極的に書こうとしている。 他の漢字についても、その成り立ちについて関心をもって調べている。  <b>支援</b> : 教科書の図版を拡大提示し、関心を高める。 他の漢字についても、成り立ちについて関心が高まるようにはたらきかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2・3月 (3時間)	2	35・36	学しゅうの まとめ	○1年間の書写学習を振り返り、学習した内容を確認することができる。  ○学習したことを生かして、時間割りの文字を正しく書くことができる。  ○字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○「ふりかえって みよう」を見て、学習したことを確かめる。 ○字形に気をつけて時間割りを書く。 ○行頭や句読点の位置に気をつけて、『かさこじぞう』の一部を書く。	アイウ	<b>B</b> : 字形や書く位置について理解している。 字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書いている。  <b>A</b> : 字形や書く位置について、よく理解している。 書く位置に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> : 字形や書く位置について確かめられるようはたらきかける。 字形や書く位置について確かめられるようはたらきかける。	<b>B</b> : 今まで学習した内容について考えている。  <b>A</b> : 今まで学習した内容について、よく考えている。  <b>支援</b> : 今まで学習した内容を、教科書を見ながら想起するようはたらきかける。	<b>B</b> : 学習したことを生かして、意欲的に書こうとしている。 他の文章でも、書く位置に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> : 学習したことを生かして、積極的に書こうとしている。 常に書く位置に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> : 今まで学習した内容について、グループで話し合うよう促す。 学習した以外の文章でも、書く位置に気をつけて、字形を整えて書くよう意識づける。
	1	37～39	【かん字の ひょう】 二年生で学しゅうする かん字  一年生で学しゅうした かん字	○2年生で学習した内容（書き順、画の方向、画の長さ、画と画の間、画のつき方と交わり方、文字の中心、文字の形）を確認することができる。  ○1年生で学習した漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）や送筆（「おれ」「まがり」「そり」）などの書き方を確かめることができる。  ○1年生で学習した字形の整え方や書き順などを確かめることができる。	○書き順のきまりと、字形の整え方を確かめる。 ○漢字の表から探した漢字について、画の方向、画の長さ、画間、画のつき方と交わり方、文字の中心、外形に気をつけて練習する。 ○学習した漢字を使って言葉を書く。	アイウ	<b>B</b> : 始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向について理解している。 始筆・送筆・終筆などの違いによって、漢字の仲間さがしをしている。  <b>A</b> : 始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向、字形について、よく理解している。 始筆・送筆・終筆などの違いによって、漢字を正しくグループ分けしている。  <b>支援</b> : 拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向、字形などを比べてみるができるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	<b>B</b> : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向について考えている。  <b>A</b> : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向、字形の良さあしを考えている。  <b>支援</b> : 拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の正しい書き方や字形などが確かめられるようにする。	<b>B</b> : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向などに気をつけて確かめようとしている。 他の文字でも始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向、字形に気をつけようとする意識をもっている。  <b>A</b> : 始筆・送筆・終筆の書き方や、画の長さ・方向などに気をつけて、意欲的に書こうとしている。 常に始筆・送筆・終筆の書き方や画の長さ・方向、字形に気をつけようとする意識をもっている。  <b>支援</b> : 拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の書き方などに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、気をつけるよう意識づける。
	適時	40	【ひらがなの ひょう・かたかなの ひょう】	○平仮名・片仮名の書き順や字形、拗音、促音、長音などの書きまわりを確認することができる。  ○平仮名・片仮名の言葉を探し活動に、意欲的に取り組むことができる。	○「ひらがなの ひょう」「かたかなの ひょう」を見て、書き順や字形を確かめる。 ○長音、拗音、促音、句読点、「かぎ」の書きまわりを確かめる。 ○教科書のイラストを参考にしながら、片仮名の言葉を探して書く。	アイウ	<b>B</b> : 平仮名と片仮名の筆順や字形について理解している。  <b>A</b> : 平仮名と片仮名の筆順や字形について、よく理解している。  <b>支援</b> : ふだん、字形が整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。	<b>B</b> : 平仮名と片仮名の字形や筆順について考えている。  <b>A</b> : 平仮名と片仮名の字形や筆順について、よく考えている。  <b>支援</b> : 間違えやすい字形について、重点的に確かめられるように呼びかける。	<b>B</b> : 平仮名と片仮名の筆順や字形を確かめている。 片仮名の言葉を探している。 他の片仮名でも筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。  <b>A</b> : 平仮名と片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 片仮名の言葉を、積極的に探している。 常に筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> : 間違えやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。
	適時	41	【はってん】 三年生から毛筆の学しゅうが はじまるよ。	○3年生から始まる毛筆学習について、関心を高めることができる。	○3年生の教科書を用意して、これから行う毛筆学習について、用具の説明などを行う。 ○班で1セット程度、毛筆用具が準備できれば、筆で自由な線を書く活動を行う。	アイウ			<b>B</b> : 3年生で学習する毛筆学習について、説明をよく聞いている。  <b>A</b> : 3年生で学習する毛筆学習について、説明をよく聞き、質問をしている。  <b>支援</b> : 筆記具の違いに気づくよう、書き比べて確かめられるようにする。

令和6年度版『小学 書写 四年』 「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月(2時間)		表紙裏①～2	知りたいな！手書き文字のよさどんなときに手書きで書く？	手書き文字のよさを知り、書写の学習への意欲を高めることができる。	○教科書①～2ページの写真を見て、手書き文字がどのような場面で使われているかについて、話し合う。 ○文字を手書きすることのよさについて考え、話し合う。 ○グループごとに発表する。	アイウ	<b>B</b> : 手書き文字の使用場面や意味について話し合っている。  <b>A</b> : 手書き文字の使用場面や意味について進んで話し合っている。  <b>支援</b> : 教科書の写真以外にも、校外の手書き文字を共有して、興味をもてるようにする。	<b>B</b> : 日常生活における手書き文字の使用場面や意味について考えている。  <b>A</b> : 日常生活における手書き文字の使用場面や意味についてよく考えている。  <b>支援</b> : 教科書を参照しながら、他教科や日常生活の文字を書く場面で生かせることを説明する。	<b>B</b> : 手書きの大切さを知り、これからの書写学習に対する意欲をもっている。  <b>A</b> : 手書きの大切さを理解し、これからの書写学習に積極的に取り組む意欲をもっている。  <b>支援</b> : 書写学習が生かせる場面で、意識的に声かけをする。
	2	3～5	目次 四年生で学習すること  学習の進め方	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○1年間の学習内容を知り、見通しをもつ。	アイウ	<b>B</b> : 1年間のめあてや学習内容について知っている。  <b>A</b> : 1年間のめあてや学習内容について理解している。  <b>支援</b> : 前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		<b>B</b> : 1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。  <b>A</b> : 1年間の学習内容を理解し、積極的に書写学習に取り組む意欲をもっている。  <b>支援</b> : 教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		6～14	1 はじめの学習 1 毛筆用具の名前と、置き方やあつかい方 2 よいせいと筆の持ち方 3 3年生で学習したこと ■点画の種類 4 あとかたづけ	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常によい姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。 ○3年生で学習したことを確かめることができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書12・13ページを参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について確かめる。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな線を毛筆で書く。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を毛筆で書く。 ○自分のめあてを設定して練習する。 ○自分のめあてに沿った「点	アイウ	<b>B</b> : 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。  <b>A</b> : 用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。 用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。	<b>B</b> : 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。  <b>A</b> : 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを判断できる。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。	<b>B</b> : 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 他の書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> : 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常によい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					画の種類をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。		<b>支援</b> ：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	<b>支援</b> ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	<b>支援</b> ：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写以外の学習でも気をつけるように呼びかける。
5月 (2～3時間)	2～3	15～17	2 点画の筆使い『花』	○点画の筆使いを確かめることができる。 ○点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○点画の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『花』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書12・13ページを参照して基本点画の筆使いを確かめる。 ○片仮名の「ヒ」との違いや点画の書き方に気をつけて、練習する。 ○『花』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから筆使い	アウ	<b>B</b> ：点画の筆使いについて理解している。点画の筆使いに気をつけて書いている。  <b>A</b> ：点画の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：他の文字の例を見ることによって、点画の筆使いを確かめられるようにする。それぞれの課題解決ができるような練習用紙を使って、書きにくい部分が解決できるようはたらきかける。	<b>B</b> ：点画の筆使いについて考えている。  <b>A</b> ：点画の筆使いの良しあしを考えている。  <b>支援</b> ：穂先の向きと穂先の通り道はどうなっているか説明できるようにする。空書することで、それぞれの筆使いを確かめるようにする。	<b>B</b> ：点画の筆使いに気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> ：点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> ：水書板などを使って、「はらい」「曲がり」などの筆使いを確かめられるようにする。
6月 (3時間)	1	18・19	【レッツ・トライ】発表しよう一学習内ようをまとめる	○横書きの書き方(行頭のそろえ方、字間、行間)を理解して、文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習のなかで、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○読み手に内容がよく伝わる発表資料にはどうしたらよいか話し合う。 ○横書きで読みやすく書くためのポイントを理解する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて発表資料の一部を鉛筆で練習する。 ○書いたものを自己評価してから相互評価をする。	アイ	<b>B</b> ：横書きの書き方と配列について理解している。横書きの書き方を理解して、配列に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：横書きの書き方をよく理解して、配列の整え方について把握している。横書きの書き方を理解して、配列よく書いている。  <b>支援</b> ：簡条書きを書く際の行頭のあげ方や字間など、具体的な視点をあげて呼びかける。補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	<b>B</b> ：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について話し合っている。  <b>A</b> ：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について、積極的に話し合っている。  <b>支援</b> ：どのように書いたら相手に伝わりやすいか、具体的な場面について投げかけるようにする。	<b>B</b> ：書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて書こうとしている。  <b>A</b> ：書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて積極的に書こうとしている。  <b>支援</b> ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて書くよう呼びかける。
	2	20・21	3 点画のせし方と間かく『日記』	○点画のせし方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○横画の間かくに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○点画のせし方と横画の間かくを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『日記』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、練習する。 ○『日記』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、硬筆で書く。	アウ	<b>B</b> ：点画のせし方と横画の間かくについて理解している。点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書いている。  <b>A</b> ：点画のせし方と横画の間かくについてよく理解し、字形の整え方を把握している。点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：他の文字の例を見ることによって、点画のせし方と横画の間かくを確かめられるようにする。	<b>B</b> ：点画のせし方と横画の間かくについて考えている。  <b>A</b> ：点画のせし方と横画の間かくについてよく考えている。  <b>支援</b> ：分解文字などを使って、点画のせし方と横画の間かくが視覚的に確かめられるようにする。	<b>B</b> ：点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> ：点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> ：学習した以外の文字や硬筆でも、点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書くよう呼びかける。
6・7月 (3～4時間)	3～4	22・23	4 筆順と字形『左右』	○筆順と字形の関係を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○筆順と字形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『左右』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○正しい筆順と点画の長さの違いに気をつけて、練習する。 ○『左右』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから筆順と字形に気をつける漢字を探して、硬筆で書く。	アウ	<b>B</b> ：筆順と字形との関係について理解している。筆順と字形に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。正しい筆順で、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：他の文字の例を見ることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。画の長さや外形について、具体的に説明できるようにする。	<b>B</b> ：筆順と字形との関係について考えている。  <b>A</b> ：筆順と字形との関係について、よく考えている。  <b>支援</b> ：分解文字などを使って、筆順と字形が確かめられるようにする。	<b>B</b> ：筆順と字形に気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> ：字源を説明することで、筆順と字形に対する関心を高められるようにする。学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		24・25	<こう筆の学習>筆順と字形	○筆順の原則を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○筆順の大きなきまりと、その他のきまりを確かめて『景』『然』『信』『類』を硬筆で試書する。 ○試書と比べて筆順について話し合う。 ○正しい筆順と筆順の原則を理解する。 ○筆順に気をつけて、教材文字を書く。 ○筆順を誤りやすい『兆』『機』『飛』『成』を書く。 ○筆順と字形に気をつけて硬筆でまとめ書きする。	ア	<b>B</b> ：筆順の原則について理解している。筆順と字形に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。正しい筆順で、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。	<b>B</b> ：筆順の原則について考えている。  <b>A</b> ：筆順の原則についてよく考えている。なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。  <b>支援</b> ：教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。筆順に対する関心を高める。書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。	<b>B</b> ：筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。他の書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> ：文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
9月 (4時間)	2	26・27	5 ひらがなの筆使い『はす』	○「結び」の筆使いを理解することができる。 ○「結び」の筆使いや形の違いに気をつけて書くことができる。 ○「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『はす』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「結び」の筆使いや字形、穂先の動きに気をつけて、練習する。 ○『はす』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末の「ひらがな表」などから、字形に気をつける文字を探して、硬筆で書く。	アウ	<b>B</b> ：「結び」の筆使いについて理解している。「結び」の筆使いに気をつけて書いている。  <b>A</b> ：横の「結び」と縦の「結び」の筆使いの違いや字形について、よく理解している。「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：拡大文字などを使って、筆使いや形が視覚的に確かめられるようにする。教科書の図版を参照しながら縦の結びと横の結びの違いについて説明し、理解できるようにする。	<b>B</b> ：「結び」の筆使いについて考えている。「結び」の筆使いに気をつけて書いている。  <b>A</b> ：「結び」の筆使いの良しあしを考えている。  <b>支援</b> ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	<b>B</b> ：「結び」の筆使いに気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、「結び」の字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>A</b> ：「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に縦・横の「結び」の字形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。  <b>支援</b> ：拡大文字などを使って、「結び」の筆使いや形に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「結び」の形の違いに気をつけて書くよう呼びかける。
	1	28・29	【レッツ・トライ】ノート—理科のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意識をもち、工夫して書こうとすることができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して、工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し、学級で共有する。 ○学習したことを生かして、次時のノートをとる。	アイ	<b>B</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。  <b>A</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。  <b>支援</b> ：簡条書きで書く際の行頭のあげ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。自分の普段のノートを見直してみ、わかりにくい点はないか確かめるようにする。	<b>B</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。  <b>A</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。  <b>支援</b> ：どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。	<b>B</b> ：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもっている。書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。  <b>A</b> ：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。常にわかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。  <b>支援</b> ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写以外の学習でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	30・31	【レッツ・トライ】 はがき一けい老の日はがき	○はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書くことができる。  ○文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○はがきを書く時の手順やはがきの形式、はがきの裏面の書き方を確かめる。 ○教科書を見て文字の大きさや行の中心はどうなっているか話し合う。 ○都道府県の書き方を知り、練習する。 ○メモをもとにはがきを書いてみる。 ○学習したことができているか自己評価する。	アイ	<b>B</b> ：文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。  <b>A</b> ：文字の大きさや行の中心の揃え方について、よく理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさと行の中心に気をつけて書いている。  <b>支援</b> ：教科書の紙面を参照しながら、はがきの書式について確かめられるようにする。 はがきに対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしように、教科書を見ながら確かめられるようにする。	<b>B</b> ：はがきの形式に従って丁寧に書く方法について考えている。  <b>A</b> ：はがきの書式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。  <b>支援</b> ：相手の名前を上位置に書くことや、はがきの中央に大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	<b>B</b> ：はがきの形式を理解し、丁寧に書くようとしている。  <b>A</b> ：はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書くようとしている。  <b>支援</b> ：実際のはがきの例を提示することで関心を高めるようにする。
10・11月 (7～8時間)	2	32・33	6 文字の組み立て方(左右)『土地』	○「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化を理解することができる。  ○「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。  ○「へん」の幅と点画の形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『土地』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「へん」と「つくり」の組み立て方について確認し、練習する。 ○『土地』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから左右の組み立て方に気をつける漢字を探して、硬筆で書く。	アウ	<b>B</b> ：「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化について理解している。 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：他の文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみるようにする。 点画のゆずり合いが確かめられるようにする。	<b>B</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方について考えている。  <b>A</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方の良しあしを考えている。  <b>支援</b> ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	<b>B</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書くようとしている。  <b>A</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書くこととする意識をもっている。  <b>支援</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
	2	34・35	7 文字の組み立て方(上下)『竹笛』	○上の部分の高さと形の変化を理解することができる。  ○上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。  ○上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『竹笛』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「たけかんむり」と「由」の組み立て方を確認し、練習する。 ○『竹笛』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから上下の組み立て方に気をつける漢字を探して、硬筆で書く。	アウ	<b>B</b> ：上の部分と下の部分の高さの違いと点画の形の変化について理解している。 上下の組み立て方に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：上の部分と下の部分の高さの違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。 上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：他の文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみるようにする。 点画のゆずり合いが確かめられるようにする。	<b>B</b> ：上下の組み立て方について考えている。  <b>A</b> ：上下の組み立て方の良しあしを考えている。  <b>支援</b> ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	<b>B</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書くようとしている。 他の文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書くこととする意識をもっている。  <b>A</b> ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くこととする意識をもっている。  <b>支援</b> ：学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	36・37	文字の組み立て方(選たく) ①左右の組み立て方『木材』 ②上下の組み立て方『岩山』	○自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、めあてに気をつけて書くことができる。  ○左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解して、字形を整えて書くことができる。  ○左右・上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○自分の選んだ教材文字を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○幅や高さ、形の変化について確認し、課題別に練習する。 ○自分の選んだ教材文字をまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。	アウ	<b>B</b> ：左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解している。 左右・上下の組み立て方に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解し、字形を把握している。 左右・上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：点画のゆずり合いや、自分の課題が視覚的に確かめられるようにする。 点画のゆずり合いが確認できるようにする。	<b>B</b> ：自分のめあてに適した教材を選択している。 幅や高さ、形がどう変わっているか、考えている。  <b>A</b> ：自分のめあてに適した教材を、適切に選択している。 幅や高さ、形がどう変わっているか、よく考えている。  <b>支援</b> ：それぞれの教材文字は、幅や高さ、形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	<b>B</b> ：自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択しようとしている。 他の文字や硬筆でも、自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書くこととしている。  <b>A</b> ：自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、めあてに気をつけて書くこととしている。 常に自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書くこととしている。  <b>支援</b> ：自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。 学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて、主体的に書くよう呼びかける。
		38	くこう筆の学習 文字の組み立て方	○左右・上下の組み立て方と点画の変化について理解することができる。  ○左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。  ○左右・上下の組み立て方で構成される漢字の、点画の変化を見つける活動について、意欲的に取り組むことができる。	○『説』『湖』『電』を硬筆で試書する。 ○それぞれの組み立て方がどのようなになっているか考え、基準を確かめる。 ○文字の組み立て方に気をつけて練習する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○巻末漢字表から、左右・上下の組み立て方で構成されている漢字を探す。	ア	<b>B</b> ：左右の幅の違い、上下の高さの違いと点画の変化について理解している。 左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：左右・上下の組み立て方と点画の変化についてよく理解し、字形を把握している。 左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方と点画の変化が視覚的に理解できるようにする。 左右の幅や上下の高さと点画の変化について意識できるようにする。	<b>B</b> ：左右の幅、上下の高さ、点画の変化について考えている。  <b>A</b> ：左右・上下の組み立て方、点画の変化の良しあしを考えている。  <b>支援</b> ：毛筆文字などを使って、組み立て方や幅、点画の変化が確かめられるようにする。	<b>B</b> ：左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に取り組もうとしている。 他の文字でも左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書くこととする意識をもっている。  <b>A</b> ：左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に、意欲をもって取り組もうとしている。 常に左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書くこととする意欲をもっている。  <b>支援</b> ：漢字合わせクイズを行ったり、部首のものと字について調べたりすることで、関心を高めるようにする。 学習した以外の文字でも、組み立て方と点画の変化に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月 (5～6時間)	1	39	【レッツ・トライ】 文化 ― 短歌	○文字の大きさと配列について理解することができる。  ○文字の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	○教科書の短歌・俳句を硬筆で書く。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○練習用紙を選び、文字の大きさと行の中心に気をつけて練習する。 ○試書と比べて自己評価する。 ○他の俳句や短歌でも、配列を整えて書くことと読みやすいことを知る。	アイ	<b>B</b> ：文字の大きさと配列について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。  <b>A</b> ：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。 文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	<b>B</b> ：文字の大きさと配列について考えている。  <b>A</b> ：文字の大きさと配列について、よく考えている。  <b>支援</b> ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	<b>B</b> ：文字の大きさと配列に気をつけて書くようとしている。 書き以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くこととする意識をもっている。  <b>A</b> ：文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書くようとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書くこととする意識をもっている。  <b>支援</b> ：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。 書き以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	50・51、53～56	書きぞめ 『元気』 『美しい空』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。  ○文字の大きさや中心に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	○書きぞめの由来を確かめる。 ○書きぞめの姿勢や小筆の持ち方を確かめる。 ○『元気』(または『美しい空』)を試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書12・13ページを参照しながら、基本点画の筆使いを確かめる。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて、自己評価する。	アイウ	<b>B</b> ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて理解している。 これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて書いている。  <b>A</b> ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて、よく理解している。 これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて、字形を整えて書いている。  <b>支援</b> ：今まで学習した筆使いについて、点画の名称を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えると、文字の大きさに気をつけて確かめられるようにする。	<b>B</b> ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。  <b>A</b> ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良しあしを考えている。  <b>支援</b> ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	<b>B</b> ：書きぞめに関心をもち、書くようとしている。 他の学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方で、字形を整えて書くこととする意識をもっている。  <b>A</b> ：書きぞめに関心をもち、積極的に書くようとしている。 常によい姿勢や持ち方で、字形を整えて書くこととする意識をもっている。  <b>支援</b> ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書き以外の学習でも、姿勢や持ち方、筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	40	【知りたい 文字の世界】 さまざまなかるた	○さまざまなかるたについて知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○自分が住む地域のかかるたや、さまざまなかるたについて調べる。 ○かるたの特徴など、気がついたことを話し合う。 ○話し合ったことを発表する。	アイ			<b>B</b> ：さまざまなかるたについて調べようとしている。  <b>A</b> ：さまざまなかるたについて、積極的に調べようとしている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準					
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
												支援：学校にあるさまざまなかるたを例示することで、関心を高めるようにする。
	1	41	【レッツ・トライ】 かるた一ぼうさいかるたを作る	○これまで学習した内容を生かして、ぼうさいかるたの文字を書くことができる。 ○用紙全体に対する文字の大きさや配列を考えて書くことができる。	○ワークシートに防災かるたの文章を考えて書く。 ○教科書を見ながら、読みやすい文字の大きさや配列を考えて下書きをする。 ○自分のめあてを設定する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○かるたの用紙に書き、防災かるたを完成させる。 ○自己評価シートを記入し、自己評価する。	アイ	B：読みやすい文字の大きさや配列を理解している。 文字の大きさや配列について防災かるたを書いている。 A：読みやすい文字の大きさや配列について、よく理解している。 文字の大きさや配列を整えて、防災かるたを書いている。 支援：行が曲がってしまう場合は鉛筆で薄く中心線を書いたり、文字を書く位置に丸で印をつけたりするよう呼びかける。	B：読みやすい文字の大きさや配列について考えている。 A：読みやすい文字の大きさや配列について、よく考えている。 支援：平仮名は漢字よりやや小さく書くこと、頭文字は大きく書くことなどを、具体的に説明する。	B：文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。 書き以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A：文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。 書き以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。			
2・3月 (4～5時間)	4～5	42～45	8 学習のまとめ 『平和』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『平和』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○左右の組み立て方や、はらいの方向の違いを理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『平和』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。(毛筆) ○縦罫線の用紙に『ごんぎつ』	アイウ	B：これまで学習した字形の整え方について理解している。 これまで学習したことを生かして、字形の整え方に気をつけて書いている。 A：これまで学習した字形の整え方について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、字形を整えて書いている。 支援：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 字形の整え方の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	B：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援：教材文字と比べて修正することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書きの授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。			
		46	【知っておこう】 手紙—学習発表会の案内の手紙	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○教科書の例を見て、読みやすい紙面構成の工夫を話し合い、記事の位置と大きさを決める。 ○今まで学習したことを振り返り、文字の大きさや配列について想起する。 ○記事の下書きをする。 ○筆記具の効果について話し合い、適切な筆記具を選択する。 ○新聞を作成する。	アイ	B：手紙の書き方について理解している。 A：手紙の書き方について、よく理解している。 支援：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしないように、教科書を見ながら確かめられるようにする。					
		47～49	【書いて 伝え合おう】 新聞—学級新聞を作ろう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書の例を見て、読みやすい紙面構成の工夫を話し合い、記事の位置と大きさを決める。 ○今まで学習したことを振り返り、文字の大きさや配列について想起する。 ○記事の下書きをする。 ○筆記具の効果について話し合い、適切な筆記具を選択する。 ○新聞を作成する。	アイ	B：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記具を工夫したりしている。 A：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援：配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直している。 A：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直したり工夫したりしている。 支援：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 他の学習場面でも、読みやすく書くために工夫していくこととする意識をもっている。 A：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫していくこととする意識をもっている。 支援：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書きの授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。			
	適時	52	【知っておこう】 メモ—ダム見学での聞き取りメモ	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、メモを取るときに書き方について確かめる。	アイ	B：メモの取り方について理解している。 A：メモの取り方について、よく理解している。 支援：教科書の紙面を参照しながら、メモの取り方について確かめられるようにする。					
		57～60	【漢字表】 四年生で学習する漢字 三年生で学習した漢字	○3年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。 ○4年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確かめる。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から、巻末漢字表の文字を分類し、印を書き込む。 ○友達と見せ合い、正しく書けたか相互評価する。	アイ	B：同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて理解している。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けをしている。 A：同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて、よく理解している。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字を正しく仲間分けしている。 支援：これまで学習した基本、点画などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	B：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて考えている。 A：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて判断している。 支援：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 書きの授業以外でも、気をつけるよう意識づける。	B：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて、関心を高めている。 書き以外の学習でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて関心を高め、進んで取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書きの授業以外でも、気をつけるよう意識づける。			
		61	【ひらがな表】 【かたかな表】 【筆記具の特ちょう】	○平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめることができる。	○「ひらがな表」「かたかな表」を見て、平仮名と片仮名の筆順や字形を確かめる。 ○字形がうまくとれない文字について、重点的に練習する。	アイウ	B：平仮名、片仮名の筆順や字形について理解している。 A：平仮名、片仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。			B：平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A：平仮名、片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書きの授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。		

令和6年度版『小学 書写 六年』 「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月(2時間)		表紙裏①・1	知りたいな 世界の「書く」伝えたいな 日本の「書く」	○世界の文字文化や日本の文字文化を知り、興味・関心を高めている。	○教科書①・1ページの写真を見て、世界の「書く」ことの文化について話し合う。 ○教科書①・1ページの写真や、自分のこれまでの経験を踏まえ、日本の「書く」と文字文化について話し合う。	アウ	B：世界の文字文化や日本の文字文化について話し合っている。 A：世界の文字文化や日本の文字文化について進んで話し合っている。	B：世界の文字文化や日本の文字文化について考えている。 A：世界の文字文化や日本の文字文化についてよく考えている。	B：世界や日本の文字文化、歴史について関心をもち、調べていくことという意識をもっている。 A：世界や日本の文字文化、歴史について関心をもち、積極的に調べていくことという意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2		2・3	目次 六年生で学習すること	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○グループで発表する。		<b>支援</b> ：これから社会科で学習する内容と関連づけて説明するようにする。話し合いの観点として、文字の歴史に関することで知っていることがあるか、問いかけるようにする。 <b>B</b> ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 <b>A</b> ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 <b>支援</b> ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。	<b>支援</b> ：草書や行書などの書道作品や実際に書いている動画などを活用し、関心がもてるようにはたらきかける。	<b>支援</b> ：教科書の図版について、見たことのあるものはあるか問いかける。他教科との関連を知らせることで、関心がもてるようにはたらきかける。 <b>B</b> ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 <b>A</b> ：1年間の学習内容を知り、積極的に書写学習に取り組む意欲をもっている。 <b>支援</b> ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
			4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○学習の進め方について確認する。 ○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常によい姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。 ○練習用紙の作り方を確かめることができる。	○1年間の学習の進め方を確かめる。 ○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書5ページを参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について確かめる。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を毛筆で書く。 ○練習用紙の作り方を確かめる。 ○自分のめあてを設定して練習する。 ○自分のめあてに沿って「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ <b>B</b> ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方が身につけている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 <b>A</b> ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方が、よく身につけている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。 <b>支援</b> ：よい姿勢、筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	<b>B</b> ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを考えている。筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 <b>A</b> ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを判断している。筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。 <b>支援</b> ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	<b>B</b> ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。他の書写場面でも、よい姿勢、筆の持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 <b>A</b> ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。常によい姿勢、筆の持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 <b>支援</b> ：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5・6月(3～4時間)	3～4	9・10	2 文字の大きさと配列 『歩む』	○文字の大きさと配列を理解することができる。 ○文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の大きさと配列を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『歩む』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字と平仮名の形や大きさの違いと配列の整え方を理解する。 ○文字の大きさと配列に気をつけて練習する。 ○『歩む』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。	アイウ <b>B</b> ：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 <b>A</b> ：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 <b>支援</b> ：練習用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。	<b>B</b> ：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。 <b>A</b> ：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。 <b>支援</b> ：教科書の文字例から、つり合いのとれていない文字の理由について問いかける。	<b>B</b> ：他の文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>A</b> ：常に用紙全体に対する文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>支援</b> ：漢字と平仮名を組み合わせた文章の例を提示することで、文字の大きさと配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。	
11		【レッツ・トライ】 メモー話し合いメモ (書く速さを意識して)	○目的にふさわしい書く速さについて理解することができる。 ○許容される書き方について知り、関心をもつことができる。	○書く場面について具体例をあげて、目的に応じてどのような速さで書けばよいか話し合う。 ○限られた時間のなかでメモを取るときの工夫を話し合う。 ○許容される書き方について知る。 ○許容される書き方で、実際に書いてみる。	アイウ <b>B</b> ：目的に応じた書き方について理解している。許容される書き方について知っている。 <b>A</b> ：目的に応じた書き方について、よく理解している。許容される書き方について理解している。 <b>支援</b> ：許容される書き方について、使用すると便利な場面や、使用を控えた方がよい場面について、確かめられるようにする。	<b>B</b> ：さまざまな場面に適した書き方について、話し合っている。 <b>A</b> ：さまざまな場面に適した書き方について、積極的に話し合っている。 <b>支援</b> ：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。	<b>B</b> ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方を知り、関心をもっている。 <b>A</b> ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に積極的に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方について関心もち、積極的に調べている。 <b>支援</b> ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。許容される書き方について、教科書を参照しながら点画の変化した形を確かめられるようにする。		
6・7月(5時間)	3	12・13	3 文字の組み立て方(三つの部分) 『湖』	○三つの部分の組み立て方を理解することができる。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○三つの部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『湖』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○三つの部分の組み立て方について理解する。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて練習する。 ○『湖』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから三つの部分の組み立て方に気をつける漢字を探して硬筆で書く。	アイウ <b>B</b> ：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解している。三つの部分の組み立て方に気をつけて書いている。 <b>A</b> ：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 <b>支援</b> ：他の文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみるることができるようにする。点画のゆずり合いが確認できるようにする。	<b>B</b> ：三つの部分の組み立て方について考えている。 <b>A</b> ：三つの部分の組み立て方の良さあしを考えている。 <b>支援</b> ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	<b>B</b> ：三つの部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>A</b> ：三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>支援</b> ：三つの部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。	
14		<硬筆の学習> 文字の組み立て方 (左右、上下、中と外)	○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『衛』『測』『述』『葉』『察』『属』『閑』『医』『団』を硬筆で試書する。 ○組み立て方の図を見ながら基準を理解する。 ○筆順と字形の関わりについて確かめる。 ○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて練習する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表から三つの部分	アイウ <b>B</b> ：左右、上下、中と外の組み立て方について理解している。左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて書いている。 <b>A</b> ：左右、上下、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 <b>支援</b> ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。	<b>B</b> ：左右、上下、中と外の部分の組み立て方について考えている。 <b>A</b> ：左右、上下、中と外の組み立て方の良さあしを考えている。 <b>支援</b> ：教科書の図版を参照し、組み立て方について確かめられるようにする。	<b>B</b> ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 <b>A</b> ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 <b>支援</b> ：左右、上下、中と外から構成されるさまざまな文字について調べること、関心を高めるようにする。		
1	15	【レッツ・トライ】 ノート一語のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもち、工夫して書くことができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して、工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し、学級で共有する。 ○学習したことを生かして、次時のノートをとる。	アイウ <b>B</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 <b>A</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。 <b>支援</b> ：箇条書きで書く際の行頭のあげ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。自分の普段のノートを見直して、わかりにくい点はないか確かめるようにする。	<b>B</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 <b>A</b> ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。 <b>支援</b> ：どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。	<b>B</b> ：書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 <b>A</b> ：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。 <b>支援</b> ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。		

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	16・17	【レッツ・トライ】リーフレットー 校外学習のリーフレット	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	○必要事項を入れて、リーフレットの下書きを書いてみる。 ○教材例を見ながら基準を理解する。 ○折り方とレイアウトを考える。 ○相手に内容が伝わりやすい表し方を考えて練習する。 ○配置の補助線を引くなど工夫して、実際のリーフレットをまとも書きする。 ○リーフレットを見せ合い、考えを深める。	アウ	<b>B</b> : 読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 <b>A</b> : 読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 <b>支援</b> : 配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすくなるようにする。	<b>B</b> : 読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 <b>A</b> : 読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 <b>支援</b> : 読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	<b>B</b> : 書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 <b>A</b> : 書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 <b>支援</b> : 読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考慮して書くよう呼びかける。
	適時	18・19	【知りたい 文字の世界】文字の旅	○身のまわりで見られる文字の成り立ちについて知り、興味・関心を高めることができる。 ○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○現代でも見られる昔に作られた文字や、文字は何のためにあるかについて考え、話し合う。 ○文字の成り立ちについて知る。 ○平仮名や片仮名のもとになった漢字、昔に作られた文字についてなどをグループで	アウ			<b>B</b> : 文字の成り立ちについて関心をもち調べている。 <b>A</b> : 文字の成り立ちについて関心をもち、積極的に調べている。 <b>支援</b> : 他の平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。
9月 (3時間)	3	20～22	4 文字の大きさと配列、点画のつながり『思いやり』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『思いやり』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教科書を参考にしながら、文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解する。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて練習する。 ○『思いやり』を硬筆や毛筆でまとも書きする。 ○試書とまとも書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○学習の成果を生かして、硬筆で『思いやり』『はずむ心』を書く。	アイウ	<b>B</b> : 点画のつながりについて理解している。 配列のポイントについて理解している。 点画のつながりに気をつけて書いている。 用紙に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 <b>A</b> : 点画のつながりについて、よく理解している。 配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて配列よく書いている。 <b>支援</b> : 書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 中心線が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	<b>B</b> : 点画のつながりについて考えている。 用紙に対する文字の大きさと配列について考えている。 <b>A</b> : 点画のつながりについて、よく考えている。 用紙全体に対する文字の大きさと配列について、よく考えている。 <b>支援</b> : 朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	<b>B</b> : 点画のつながりについて関心をもっている。 配列に気をつけて書こうとしている。 <b>A</b> : 点画のつながりや用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に点画のつながりや用紙に対する文字の大きさ、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>支援</b> : 次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	23	【知りたい 文字の世界】私たちと文字	○日常生活のなかで見られるさまざまな文字を探し、文字に対する関心を高めることができる。 ○日常生活のなかで見られるさまざまな文字の印象について、話し合うことができる。	○事前に用意しておいた文字資料を提示する。 ○教室内の「文字」を探す。 ○集めた文字資料の中から、任意の数をグループごとに選択して話し合う。 ○「手書き文字」「活字」それぞれの特徴や効果についてまとめる。	アウ	<b>B</b> : 日常生活のなかで見られるさまざまな文字について知っている。 <b>A</b> : 日常生活のなかで見られるさまざまな文字について理解している。 <b>支援</b> : 教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	<b>B</b> : 日常生活のなかで見られるさまざまな文字について話し合い、考えている。 <b>A</b> : 日常生活のなかで見られるさまざまな文字について積極的に話し合い、よく考えている。 <b>支援</b> : 文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。	<b>B</b> : 日常生活のなかで見られるさまざまな文字について、調べようとする意識をもっている。 <b>A</b> : 日常生活のなかで見られるさまざまな文字について、積極的に調べようとする意識をもっている。 <b>支援</b> : 教科書の例、または用意しておいた文字資料を提示し、興味・関心を高めるようにする。
10・11月 (6～7時間)	1	24・25	【レッツ・トライ】文化一『枕草子』を書く	○文字の大きさと配列に気をつけて書くことができる。	○縦罫線の用紙に「春はあけぼの」を硬筆で試書する。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○中心線が入ったものや、行頭に破線が入った練習用紙などを選択して練習する。 ○硬筆でまとも書きする。 ○試書とまとも書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○いろいろな筆記具で、『枕草子』の好きな部分を選んで書く。	アウ	<b>B</b> : 文字の大きさと配列について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 <b>A</b> : 文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。 行の中心と余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書いている。 <b>支援</b> : 文字の外形を囲むことで、文字の大きさを視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	<b>B</b> : 文字の大きさと配列について考えている。 <b>A</b> : 文字の大きさと配列について、よく考えている。 <b>支援</b> : 試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	<b>B</b> : 伝統的言語文化の教材を書く意欲をもっている。 文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>A</b> : 伝統的言語文化の教材を積極的に書こうとしている。 文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 <b>支援</b> : まだ学習していない漢字については、筆順と字形を確認するよう呼びかける。 教科書の教材は、配列の整え方がどのようなになっているか、確かめられるようにする。
	3～4	26・27	5 文字の大きさと配列、点画のつながり(小筆)『名月や池をめぐりて夜もすがら』	○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。	○教科書7ページを参照して、小筆の持ち方確かめる。 ○『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解する。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて練習する。 ○『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆でまとも書きする。 ○試書とまとも書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○いろいろな用紙に、好きな俳句を小筆で書く。	アイウ	<b>B</b> : 文字の大きさと配列について理解している。 点画のつながりについて理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書いている。 点画のつながりに気をつけて書いている。 <b>A</b> : 配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりについて、よく理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて配列よく書いている。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 <b>支援</b> : 外形が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。 書いている様子を友だちと見せ合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。	<b>B</b> : 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけている。 点画のつながりについて考えている。 <b>A</b> : 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、よく考えている。 点画のつながりについて、よく考えている。 <b>支援</b> : 余白に偏りがある例を見ることで、用紙に対する文字の大きさと配列について確かめられるようにする。 筆使いに着目するよう促し、穂先の動きが確かめられるようにする。	<b>B</b> : 他の文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 配列や点画のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 <b>A</b> : 常に用紙全体に対する文字の大きさにや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 配列や点画のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 <b>支援</b> : 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。 次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。
			【レッツ・トライ】小筆一筆を生かして書く	○小筆を学習や生活のなかで生かす活動に、意欲的に取り組むことができる。 ○筆使いに気をつけて、小筆で書くことができる。	○教科書7ページを参照して、小筆の持ち方確かめる。 ○三種類の大きさの半紙から一つ選び、それぞれ考えた行数で『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆で試書す	アイウ	<b>B</b> : 小筆の持ち方や筆使い、配列について理解している。 筆使いに気をつけて、小筆で書いている。 配列や余白のとり方に気をつけて書いている。	<b>B</b> : 小筆の持ち方や筆使い、配列について考えている。	<b>B</b> : 小筆を学習や生活のなかで生かす活動に、意欲的に取り組もうとしている。 日常生活においても、小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	28・29		○行の中心や余白のとり方に気をつけて書くことができる。	る。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○自分のめあてを設定して、練習用紙を選び、練習する。 ○『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○いろいろな用紙に好きな俳		A:小筆の持ち方や筆使い、配列についてよく理解し、字形を把握している。 筆使いに気をつけて、字形を整えて小筆で書いている。 余白のとり方に気をつけて、配列よく書いている。  支援:教科書の教材文字を参照し、小筆の筆使いが確かめられるようにする。 小筆の持ち方や筆使い、配列の要点が視覚的に理解できるようにする。	A:小筆の持ち方や筆使い、配列の良さあしを考えている。  支援:小筆の持ち方の図を使って、持ち方を確かめられるようにする。	A:小筆を学習や生活のなかで生かす活動に、積極的に取り組もうとしている。 常に小筆で字配りよく書こうとする意識をもっている。  支援:小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけるよう呼びかける。 日常生活におけるいろいろな機会でも、小筆を活用して、配列よく書くよう呼びかける。
11・12月(4～5時間)	4～5	30～33	■好きな言葉を書く(『希望』『伝統』『平等』『豊かな海』)	○好きな言葉を選び、自分のめあてを設定し、めあてに気をつけて書くことができる。  ○6年間で学習したことを生かして、意欲的に取り組むことができる。  ○毛筆で選んで書いた言葉を、硬筆で書いて確かめることができる。	○『希望』『伝統』『平等』『豊かな海』の中から自分の好きな言葉一つを選び、ワークシートに理由などを書く。 ○選んだ教材文字を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合い、自分のめあてを設定する。 ○これまでの学習を振り返りながら、練習する。 ○選んだ教材文字を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○選んだ文字以外の教材文字を硬筆で書く。	アイウ	B:これまで学習した配列や字形の整え方について理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて書いている。  A:これまで学習した配列や字形の整え方について、よく理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて、配列よく書いている。  支援:6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 それぞれの教材における要点について、個別に支援するようにする。	B:6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。  A:6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。  支援:選んだ教材を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B:6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、書こうとしている。 他の学習場面においても、字形の整え方や文字の大きさに気をつけて、配列よく書くよう意識をもっている。  A:6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、積極的に書こうとしている。 常に字形や文字の大きさに気をつけて、配列よく書くよう意識をもっている。  支援:自分が書いてみたい言葉を選び、その教材におけるポイントを確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形や文字の大きさ、配列に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月(4～5時間)	4～5	43、45～48	書きぞめ『理想』『夢の実現』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。  ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。  ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	○書きぞめの由来を確かめる。 ○書きぞめの姿勢や小筆の持ち方を確かめる。 ○『理想』(または『夢の実現』)を試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書5ページを参照しながら、基本点画の筆使いを確かめる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて、自己評価する。	アイウ	B:書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。  A:書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について、よく理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書いている。  支援:教科書で学習した文字の組み立て方のポイントについて振り返ることで、確かめられるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B:書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。  A:書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。  支援:姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B:書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 他の学習の書写場面でも、よい姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう意識をもっている。  A:書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう意識をもっている。  支援:書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写の授業以外でも、姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
2・3月(3～4時間)	3～4	34・35	6 学習のまとめ『旅立ちの時』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。  ○文字の大きさに気をつけて書くことができる。  ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『旅立ちの時』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○漢字と平仮名の大きさや配列について理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『旅立ちの朝』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。	アイウ	B:これまで学習した内容について理解している。 これまで学習したことを生かして、自分の課題に気をつけて書いている。 文字の大きさや配列に気をつけて書いている。  A:これまで学習した内容について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、自分の課題に気をつけて、字形を整えて書いている。 文字の大きさや配列に気をつけて、丁寧に書いている。  支援:学級全体で意見を出し合い、1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 中心線を引いたり、文字の外形を囲んだりして、具体的に示すようにする。	B:1年間の学習を振り返り、自分の課題について考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。  A:1年間の学習を振り返り、自分の課題について、よく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。  支援:これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	B:1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめようとしている。 他の学習場面でも、文字の大きさや配列など、これまで学習したことに気をつけて書くよう意識をもっている。  A:1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を積極的に確かめようとしている。 常に文字の大きさや配列など、これまで学習したことに気をつけて、丁寧に書こうとする意識をもっている。  支援:これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容を確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、文字の大きさや、配列、字形などに気をつけて書くよう呼びかける。
		36・37	六年間で学習したこと	○文字の形や大きさ、組み立て方などに気をつけて、字形を整えて書くことができる。  ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。  ○6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめることができる。	○教材文字を見ながら1年間で学習したことを振り返る。 ○縦罫線の用紙に教科書の教材文を試書する。 ○中心に線を引いて自己修正する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。	アイウ	B:これまで学習した内容について理解している。 文字の大きさや配列について理解している。  A:これまで学習した内容について、よく理解している。 文字の大きさや配列について、よく理解している。  支援:学級全体で意見を出し合い、6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。	B:6年間の学習を振り返り、自分の課題について考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。  A:6年間の学習を振り返り、自分の課題について、よく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。  支援:これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	B:6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめようとしている。  A:6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を進んで確かめようとしている。  支援:これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容を確かめられるようにする。
		38・39	【知っておこう】手紙—お願いの手紙	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アウ	B:手紙の書き方について理解している。  A:手紙の書き方について、よく理解している。  支援:教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりするように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		
		40～42	【書いて 伝え合おう】卒業制作—思い出に残る言葉を書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○相手意識をもって、言葉や用紙を考える。 ○自分の考えた言葉を試書する。 ○これまで学習した、用紙に対する文字の配置について確かめてから、レイアウトを考える。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○自分の表現効果にふさわしい筆記具を選ぶ。 ○自分の考えた言葉をまとめ書きする。 ○友達と交換し、成果を認め合う。	アイウ	B:効果的に書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。  A:効果的に書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。  支援:配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすくなるようにする。	B:効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。  A:効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。  支援:効果的に書くための基準について確かめられるようにする。	B:他の学習場面でも、配列に気をつけて書くことを、その目的や効果を考えて成果物に生かそうとしている。  A:書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 常に書く目的や効果を考え、書写で学習した内容を日常生活に生かそうとしている。  支援:昨年の6年生が制作した成果物例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考え、書くよう呼びかける。
		44	はってん — 「行書」	○中学校で学習する行書の書き方について、興味・関心を高めることができる。	○身のまわりにある行書で書かれた文字を用意しておき、行書への関心を高める。 ○教科書の楷書と行書で書かれた『春』の文字を比較して、違いについて話し合う。 ○楷書と行書で『春』を書	アイウ			B:中学校で学習する行書について、関心を高めている。  A:中学校で学習する行書について関心を高め、積極的に学習に取り組もうとしている。

